

2011年3月期
第3四半期決算説明会

2011年2月4日
ヤマハ株式会社

2011/3期 3Q決算の概要



3Qの外部環境

- 日本は景気停滞継続も世界経済は総じて緩やかな回復を継続
- 為替レートは円高基調が定着

3Q(10~12月)の状況

- 対前年同期減収増益。対前回予想(10/29発表)でも減収増益
- 売上高は、対前回予想▲1.6%(▲16億円)の減収。為替影響(▲1.4億円)を除けば、前回予想に対し、▲1.4%(▲14.7億円)の実質減収。
対前年同期では、リビング事業譲渡(▲101億円)、マグネシウム成形事業撤退(▲21億円)及び為替影響(▲59億円)を除いた実質ベースで6.6%(67億円)の増収
- 営業利益は、対前年同期、対前回予想ともに増益

1~3Q(4~12月)の状況

- 対前年同期減収増益
- 売上高は、リビング事業譲渡(▲280億円)、マグネシウム成形事業撤退(▲44億円)及び為替影響(▲140億円)を除いた実質ベースで、前年同期比5.2%(149億円)の増収
- 営業利益は、前年同期比 55.7%(58億円)の増益。

2011/3期 3Q業績概要



▶ 対前回予想、対前年同期とも減収増益

(億円)

	10/3 (3Q) 実績	11/3 (3Q) 実績	前年 同期比	前回予想 (10/10/29)	前回予想比
売上高	1,125	1,011	▲10.2%	1,027	▲1.6%
営業利益 (営業利益率)	64 (5.6%)	71 (7.0%)	+11.2%	42	+68.3%
経常利益 (経常利益率)	59 (5.3%)	60 (5.9%)	+0.7%	31	+92.8%
当期利益 (当期利益率)	38 (3.4%)	49 (4.9%)	+28.1%	20	+146.2%

為替レート

(円)

売上高	US\$	90	83	85
	EUR	133	112	110
利益	US\$	90	83	85
	EUR	133	111	110

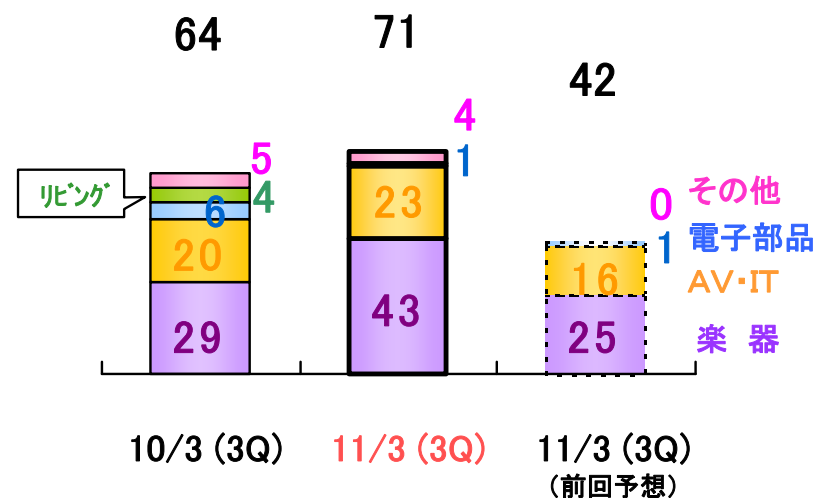
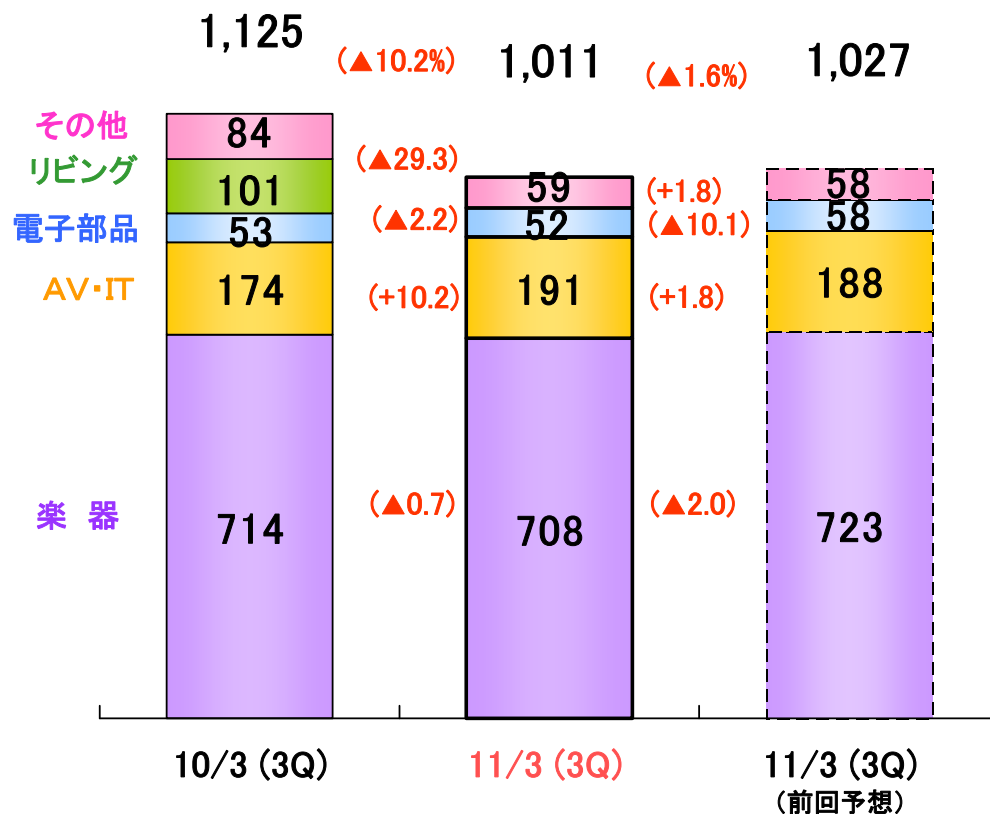
2011/3期 3Q事業別業績



売上高

営業利益

(億円)



()内は前年同期比
または
前回予想比

	為替影響額
前年同期比較	▲59億円 (楽器▲45億円、AV・IT▲13億円)
前回予想比較	▲1億円 (楽器▲2億円、AV・IT+1億円)

	為替影響額
前年同期比較	▲22億円 (楽器▲16億円、AV・IT▲6億円)
前回予想比較	▲1億円 (楽器▲1億円)

2011/3期 1～3Q業績概要



➤ 対前回予想、対前年同期とも減収増益

(億円)

	10/3 (1～3Q) 実績	11/3 (1～3Q) 実績	前年 同期比	前回予想 (10/10/29)	前回予想比
売上高	3,169	2,854	▲9.9%	2,870	▲0.5%
営業利益 (営業利益率)	105 (3.3%)	163 (5.7%)	+55.7%	135	+21.1%
経常利益 (経常利益率)	88 (2.8%)	143 (5.0%)	+63.3%	115	+24.7%
当期利益 (当期利益率)	30 (0.9%)	100 (3.5%)	+231.7%	70	+42.4%

為替レート

(円)

売上高	US\$	94	87	87
	EUR	133	113	112
利益	US\$	94	87	88
	EUR	130	116	116

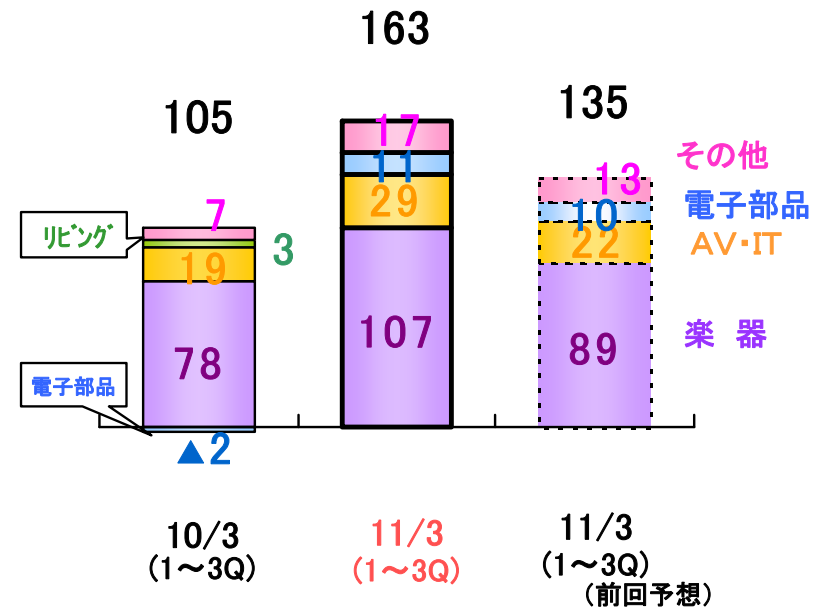
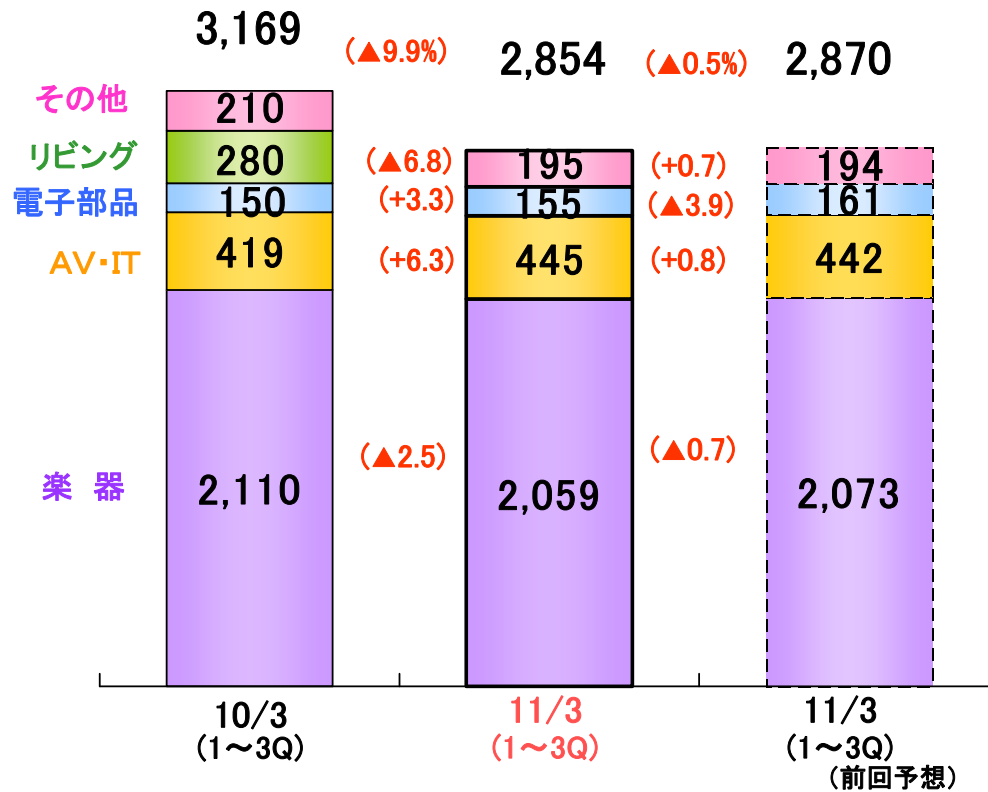
2011/3期 1~3Q事業別業績



売上高

営業利益

(億円)



()内は前年同期比
または
前回予想比

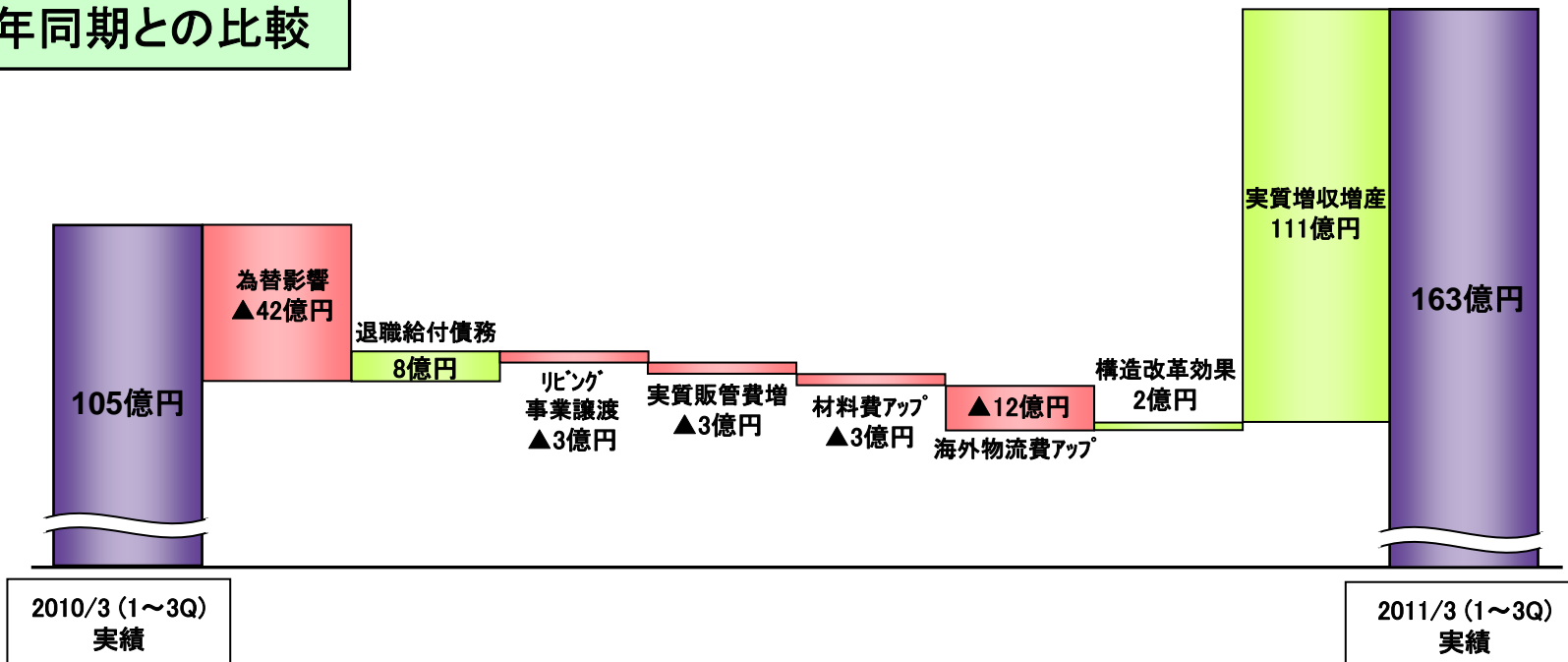
	為替影響額
前年同期比較	▲140億円 (楽器▲109億円、AV・IT▲30億円、電子部品▲1億円)
前回予想比較	▲1億円 (楽器▲2億円、AV・IT+1億円)

	為替影響額
前年同期比較	▲42億円 (楽器▲33億円、AV・IT▲8億円)
前回予想比較	▲1億円 (楽器▲1億円)

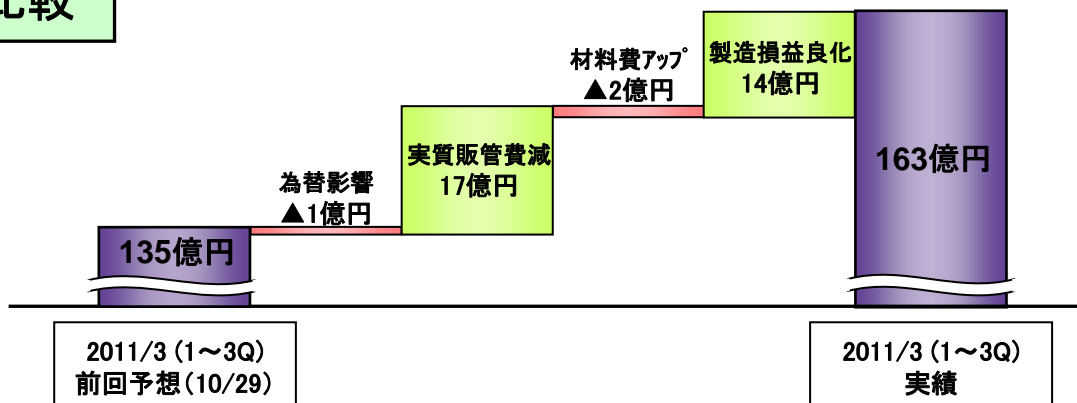
2011/3期 1～3Q営業利益増減要因



前年同期との比較



前回予想との比較



2011/3期 4Qの事業環境と通期業績予想



4Qの事業環境

- 米国、欧州の先進国市場は緩やかな回復が継続
- 中国及び新興国市場は着実な成長
- 為替は円高基調が定着

4Qの状況と施策

- 楽器は、先進国市場での回復基調を確実に掴む施策の展開
- ピアノ、管楽器の最適生産体制構築の着実な進展
- 法人向けビジネスで好調なカラオケ機器の着実な供給
- 半導体は新商品開発に注力

通期の業績予想

- 通期売上高予想を下方修正。営業利益及び各利益段階では15億円増の上方修正

2011/3期 4Q業績予想



➤4Qは対前回予想増収減益の計画

(億円)

	10/3 (4Q) 実績	11/3 (4Q) 今回予想	前年 同期比	前回予想 (10/10/29)	前回予想比
売上高	979	876	▲10.5%	870	+0.7%
営業利益	▲37	▲38	—	▲25	—
経常利益	▲39	▲43	—	▲30	—
当期利益	▲79	▲35	—	▲20	—

為替レート

(円)

売上高	US\$	91	85	85
	EUR	125	110	110
利益	US\$	90	85	85
	EUR	131	110	110

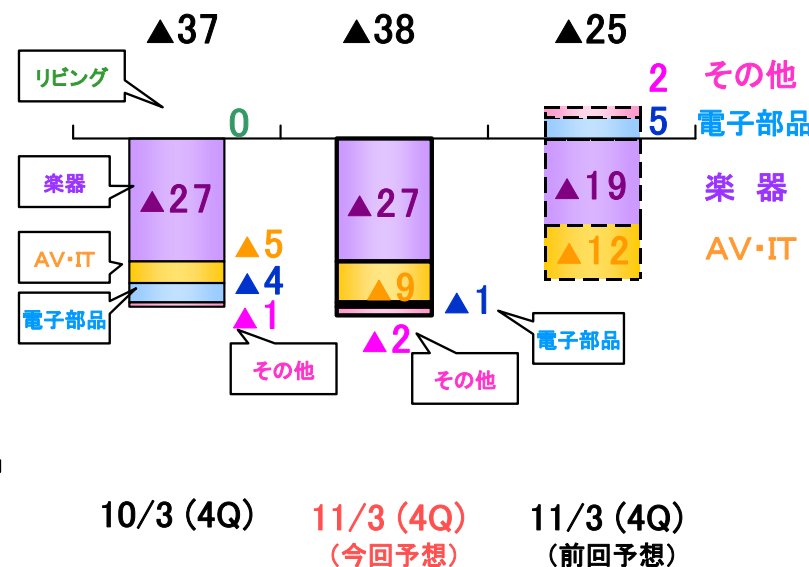
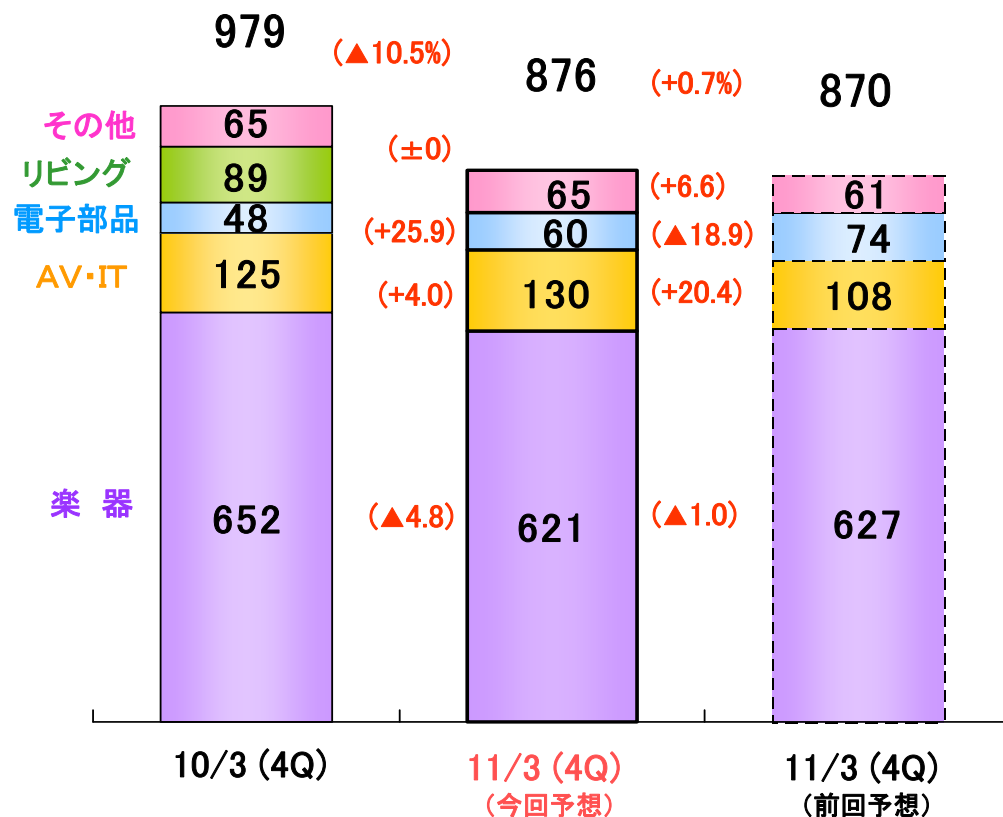
2011/3期 4Q事業別業績予想



売上高

営業利益

(億円)



()内は前年同期比
または
前回予想比

	為替影響額
前年同期比較	▲33億円 (楽器▲26億円、AV・IT▲7億円)
前回予想比較	+1億円 (楽器+0.3億円、AV・IT+0.3億円)

	為替影響額
前年同期比較	▲13億円 (楽器▲10億円、AV・IT▲3億円)
前回予想比較	▲0億円

2011/3期 通期業績予想



- 4Q為替レートは、US\$=85円、EUR=110円を前提
- 通期業績は前回予想に対し僅かに減収。営業利益は15億円の増益
(億円)

	11/3 1Q~3Q 実績	11/3 4Q 予想	11/3期 今回予想	11/3期 前回予想 (10/10/29)	10/3期 実績	前回予想 変化率	前期実績 変化率
売上高	2,854	876	3,730	3,740	4,148	▲0.3%	▲10.1%
営業利益 (営業利益率)	163 (5.7%)	▲38	125 (3.4%)	110 (2.9%)	68 (1.6%)	+13.6%	+83.1%
経常利益 (経常利益率)	143 (5.0%)	▲43	100 (2.7%)	85 (2.3%)	49 (1.2%)	+17.6%	+103.7%
当期利益 (当期利益率)	100 (3.5%)	▲35	65 (1.7%)	50 (1.3%)	▲49 (-)	+30.0%	—

為替レート (円)

売上高	US\$	87	85	86	87	93
	EUR	113	110	112	112	131
利益	US\$	87	85	87	87	93
	EUR	116	110	115	115	130

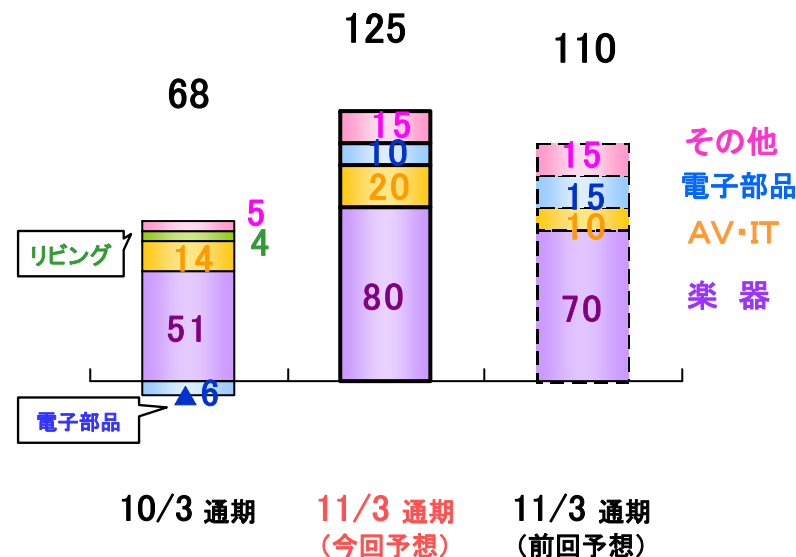
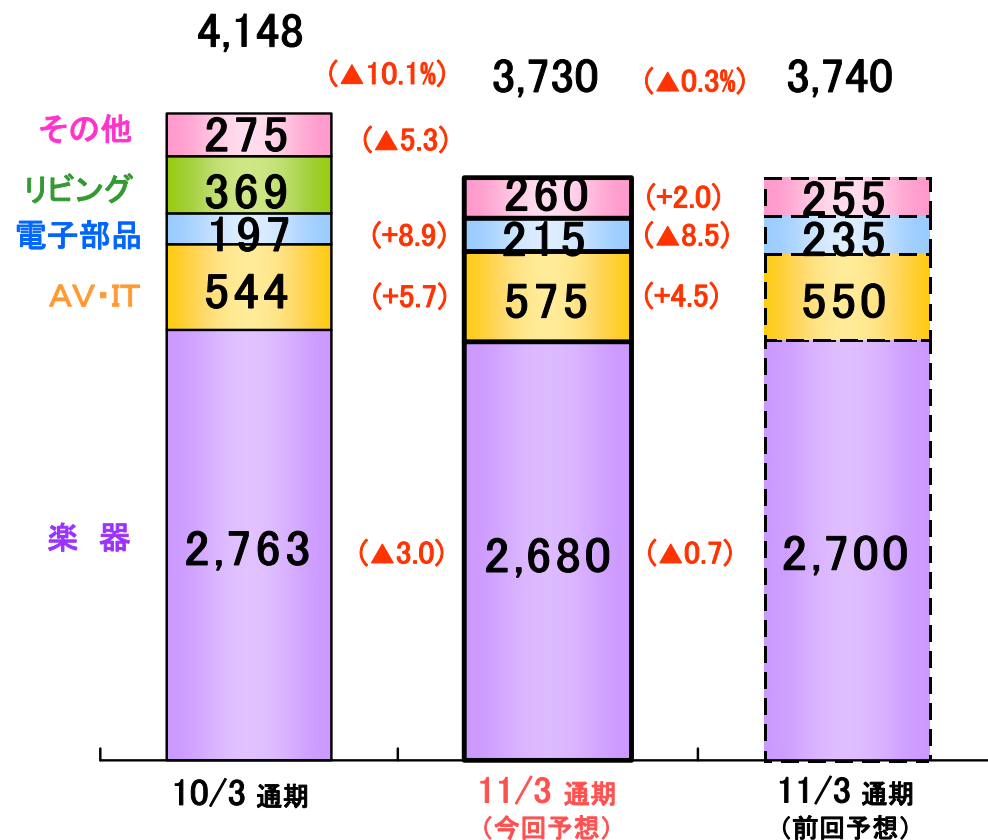
2011/3期 通期事業別業績予想



売上高

営業利益

(億円)



()内は前期比
または
前回予想比

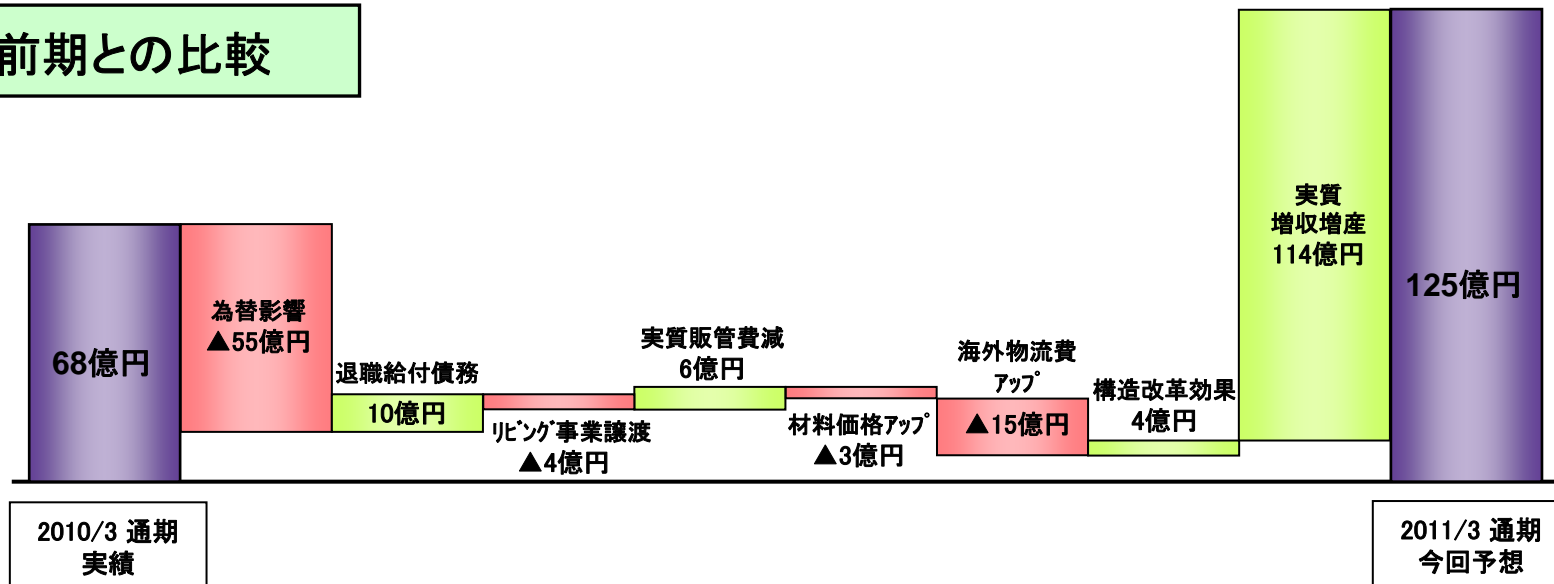
	為替影響額
前期比較	▲174億円 (楽器▲135億円、AV・IT▲37億円、 電子部品▲2億円)
前回予想 比較	▲1億円 (楽器▲2億円、AV・IT+1億円)

	為替影響額
前期比較	▲55億円 (楽器▲43億円、AV・IT▲11億円、 電子部品▲1億円)
前回予想 比較	▲1億円 (楽器▲1億円)

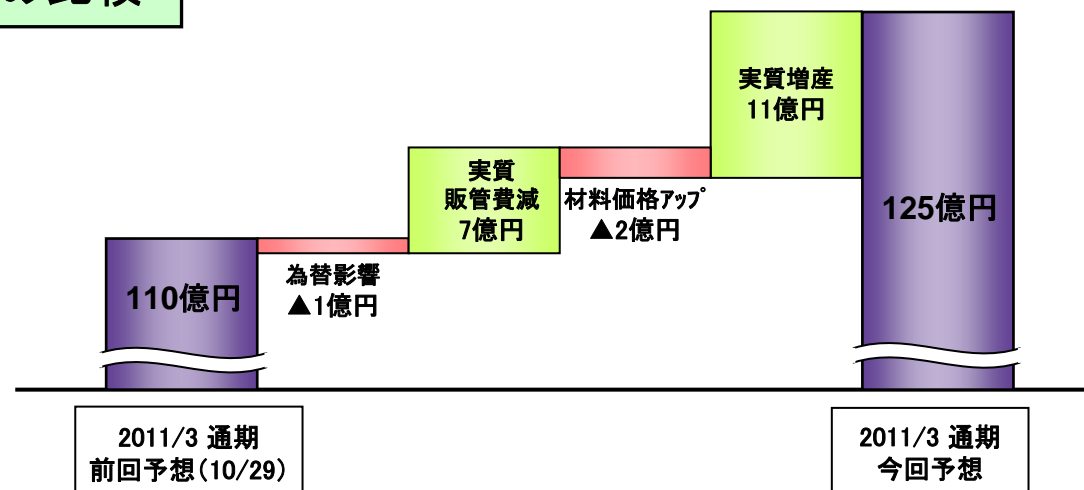
2011/3期 通期営業利益予想増減要因



前期との比較



前回予想との比較



楽器事業

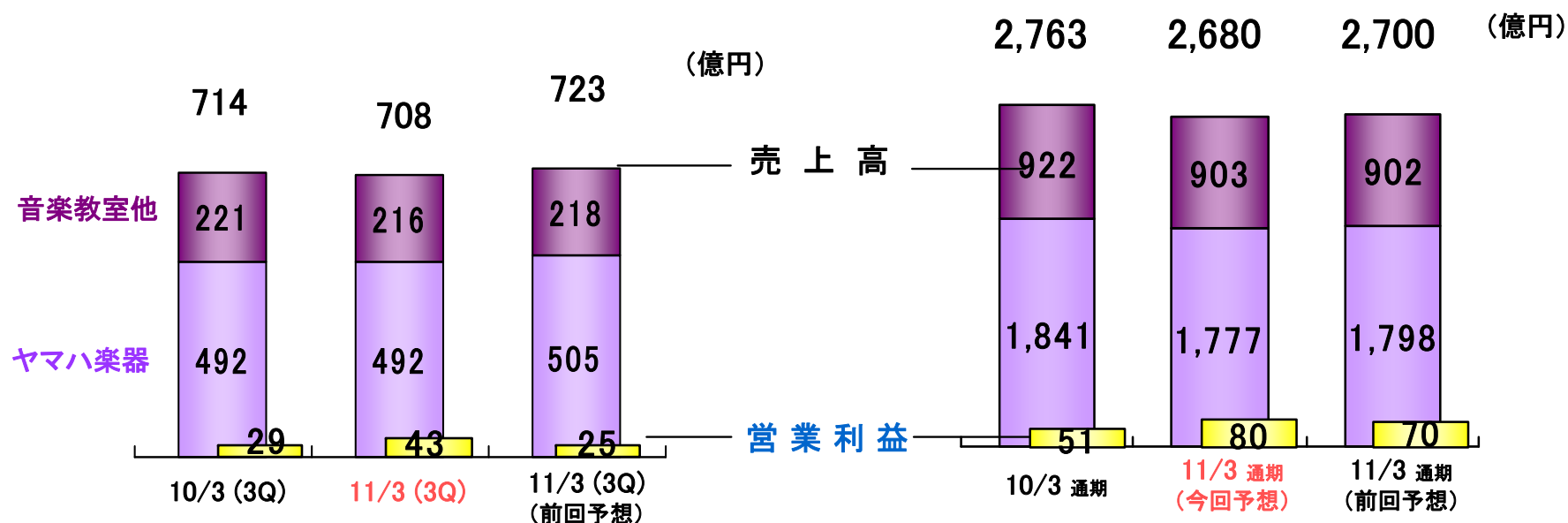


3Qの状況

- ・対前年同期、対前回予想とも減収増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比5.4%(39億円)の増収。前回予想との比較では、実質▲1.8%(▲13億円)の減収
- ・北米は電子楽器、管楽器が堅調で回復基調
- ・欧州はピアノ、ポータブルキーボードが好調
- ・中国はピアノを中心に2桁成長継続
- ・その他地域も総じて好調で前年同期実質9%の増収

通期の状況と4Q重点施策

- ・通期では前回予想に対し減収増益の計画
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前期比2%(約52億円)の増収計画
- ・コストダウンと経費削減の継続

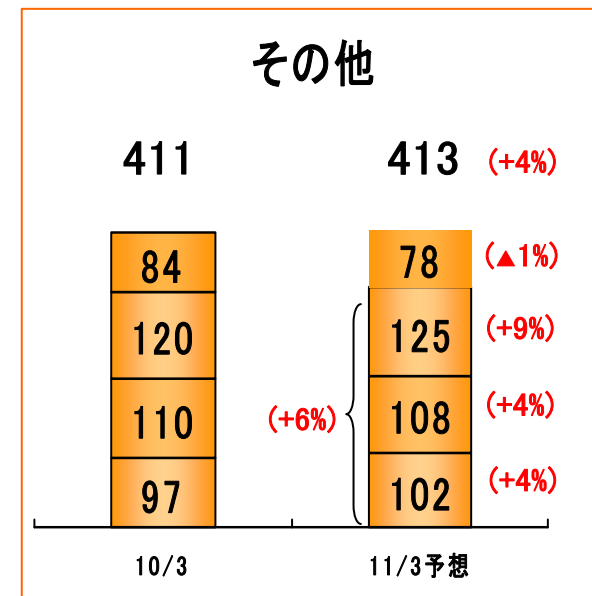
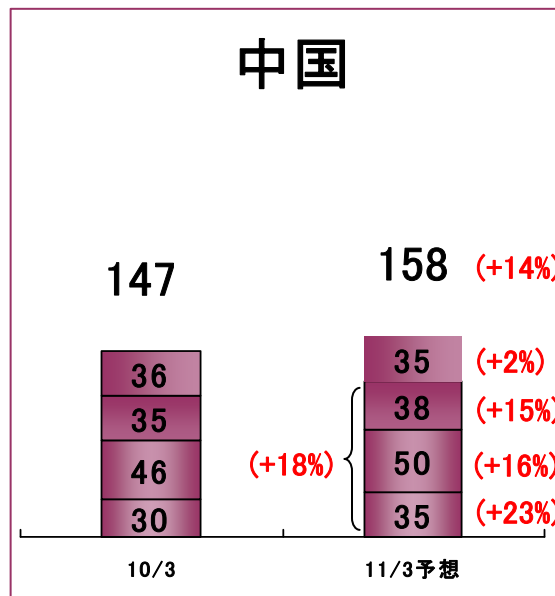
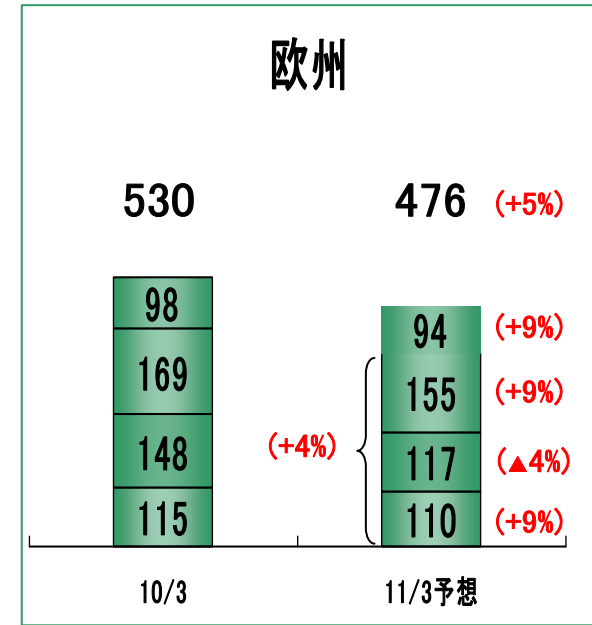
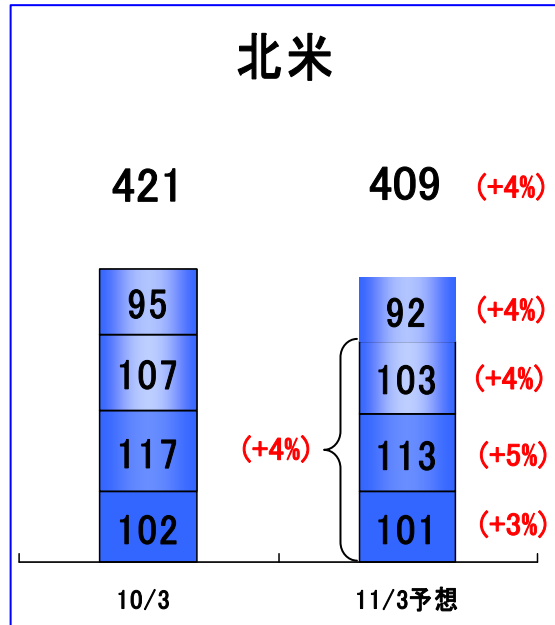
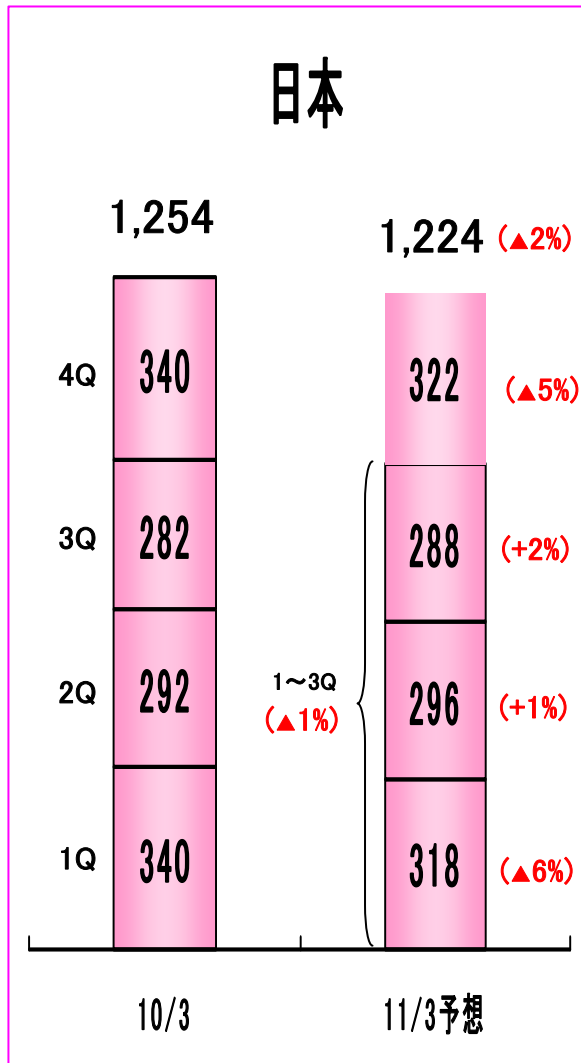


楽器事業(地域別の販売状況)



(億円)

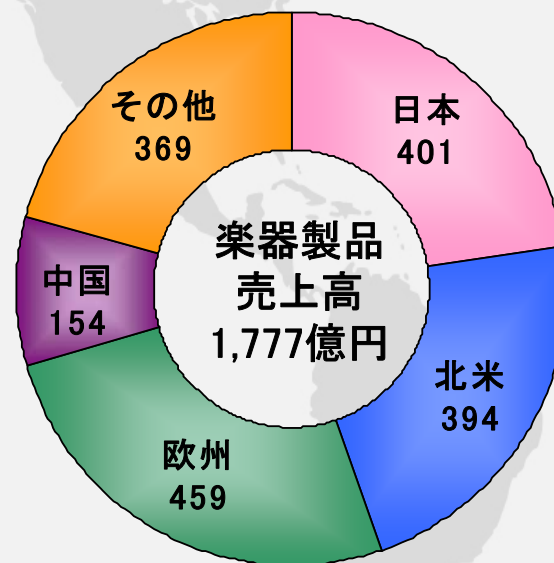
*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減



楽器事業(地域別の販売状況)

楽器地域別状況	
日本	電子ドラムとPA機器以外は、販売苦戦が継続。電子ピアノ・ポータブルキーボードは、低価格化が更に進行し、競争激化。管楽器もカスタムモデルに回復が見られるが、新規需要は頭打ちの状態。その中で、中古ピアノ対策として投入したインドネシア製アップライトピアノは、受注好調。グランドピアノも秋以降、復調気配。
北米	低価格帯商品への需要のシフトが続くものの、鍵盤楽器・管教育楽器・アコースティックギター・電子ドラムが概ね堅調に推移し、全体では前年を上回る。PA機器は、設備市場の好転が見られず、又、コンサートツアー機材入れ替えも投資が消極的なため、前年並みに留まる。
欧州	スペイン、ポルトガルでは、売上不振が継続するが、ドイツをはじめ中・北欧が伸長し、全体では前年を上回る。ピアノは低価格帯モデルが牽引して、全地域で前年から復調傾向。電子ピアノも、単価ダウンが加速するも、堅調に推移。ポータブルキーボードは、新商品が好調で対前年大幅オーバー。管楽器はイギリスの教育予算削減などが響き、僅かに前年ショート。
中国	ピアノ、ポータブルキーボードが好調に推移し、成長を継続。特にピアノは、2桁成長を維持し、全体を牽引。大陸での販売網整備、2、3級都市への販路拡大、商品ラインアップ充実で更に拡販を目指す。
その他の地域	新興国は、総じて売上成長を維持。ブラジルが先行して成長軌道に回復した中南米は、メキシコにも回復の兆しがあり、電子楽器、管楽器を中心に好調に推移。アジアは、台湾の鍵盤楽器が苦戦継続するも、全体では堅調。太洋州は回復がまだ弱い。ロシアは、電子楽器・PA機器中心に前年から大幅に伸長。インドも、拡大基調が継続。

楽器製品売上高
の地域別内訳

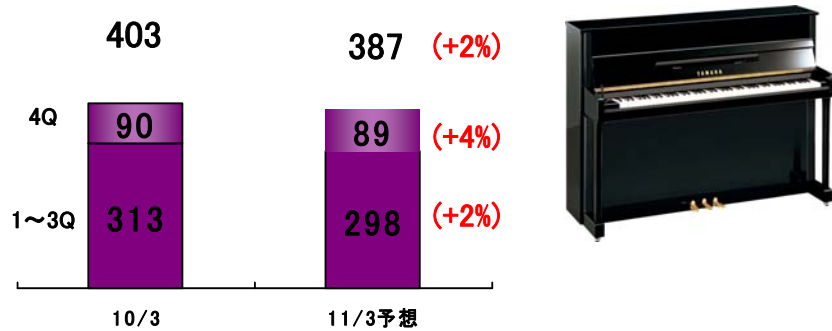


2011年3月期予想

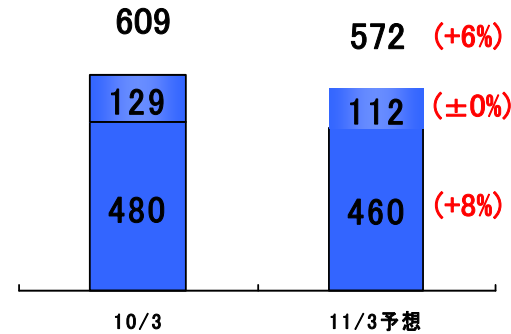
楽器製品売上高の商品群別販売状況



(億円) ピアノ

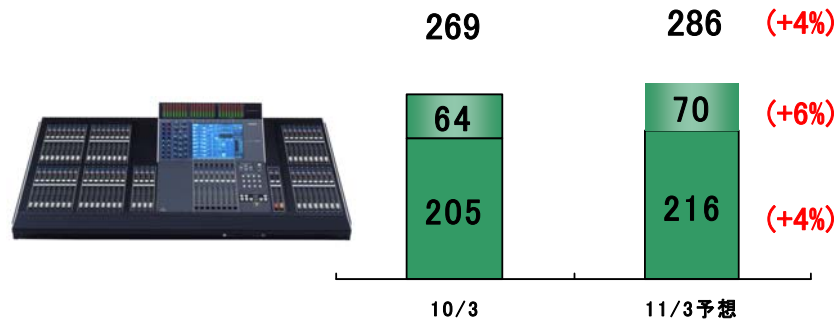


電子楽器

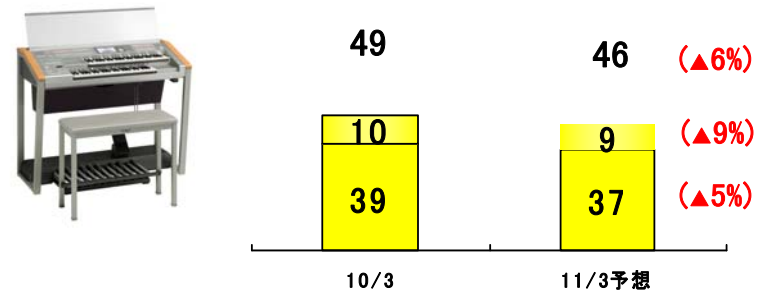


*()内は為替を除いた
実質ベースでの前期比増減
(電子楽器、PA機器は組み替え調整後)

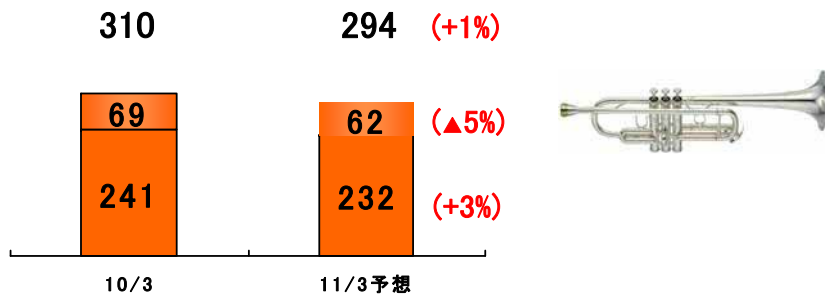
PA機器



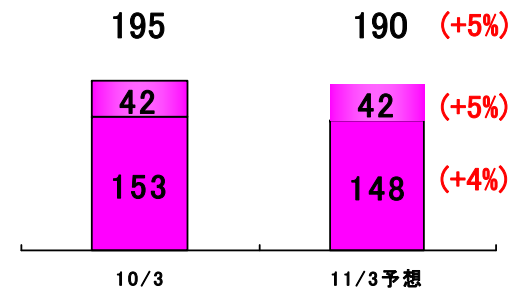
エレクトーン



管楽器



弦打楽器



楽器事業(商品群別の販売状況)



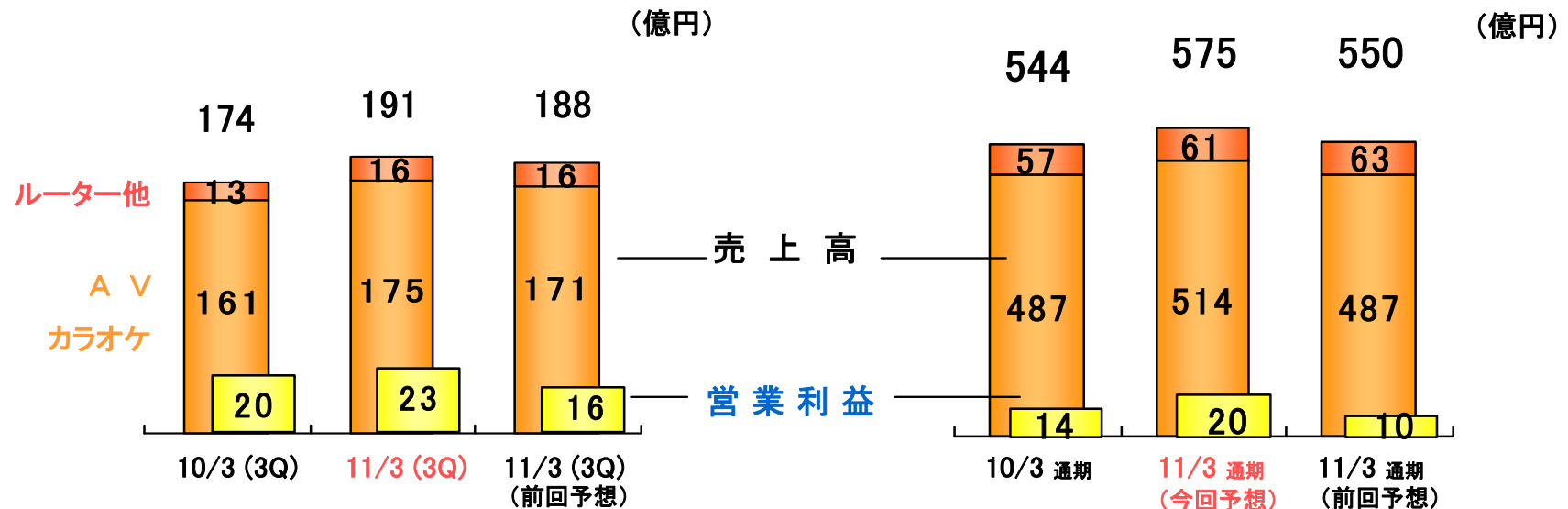
商品群別販売状況	
ピアノ	日本は、需要縮退が継続して苦戦するも、欧州は、アップライトピアノが牽引して回復基調。北米では、普及価格帯ディスクラビアにも動きが出ている。秋以降、日本も、インドネシア製アップライトピアノ投入効果が現れると共にグランドピアノも復調の兆し。中国・アジアは年末商戦活発で概ね好調。
電子楽器	電子ピアノは、出荷台数が日本を除き堅調に推移しているものの、単価ダウン傾向が継続。ポータブルキーボードは、欧米の量販店ルート向け廉価モデルや欧州でのハイエンドモデルTyros4が堅調に推移すると共に中南米等新興国で伸長し、前年を上回る。シンセサイザーは新商品投入により前年オーバー。
管楽器	北米は、レンタルビジネスの回復に加え高級トランペットの販売が貢献し、復調。アジアも、韓国を中心に持ち直す。中南米は、青少年オーケストラ向け入札が貢献し、伸長。一方、日本は、依然厳しい市場状況に変化無し。又、欧州は、イギリス・スペインで苦戦し、廉価モデルの投入で巻き返しを図るも、全体で前年を下回る見込み。
ギター・ドラム	ギターは、前年を上回る実績で推移し、通期でも前年オーバーの見込み。北米は、エレクトリック・アコースティック・ギターを中心に伸長。欧州は、アコースティックギターが堅調ながら、エレキギターは伸び悩み。新興国も、アコースティックギターが好調。ドラムは、アコースティックドラムの需要が縮小する中、電子ドラムの普及価格帯が大きく伸長し、前年を上回る。
PA機器	前期の極端な落込みからは改善傾向にはあるものの、世界的にツアー市場・設備市場の環境回復せず。予算の絞り込みに伴う低価格化も進展し、主力のデジタルミキサーの苦戦が続く。

3Qの状況

- ・対前年同期、対前回予想とも増収増益
- ・為替影響を除いた実質売上高は、前年同期比17%(30億円)の増収
- ・オーディオは、北米が厳しい状況継続ながら中国、その他地域は好調、欧州は前年同期並み
- ・国内はフロントサラウンド商品が好調に推移
- ・通信カラオケ新商品が本格出荷開始

通期の状況と4Q重点施策

- ・通期業績を上方修正。対前年、対前回予想共に増収増益の見込み
- ・通信カラオケの安定供給
- ・米国市場での中高級レシーバーの挽回
- ・在庫水準の適正化

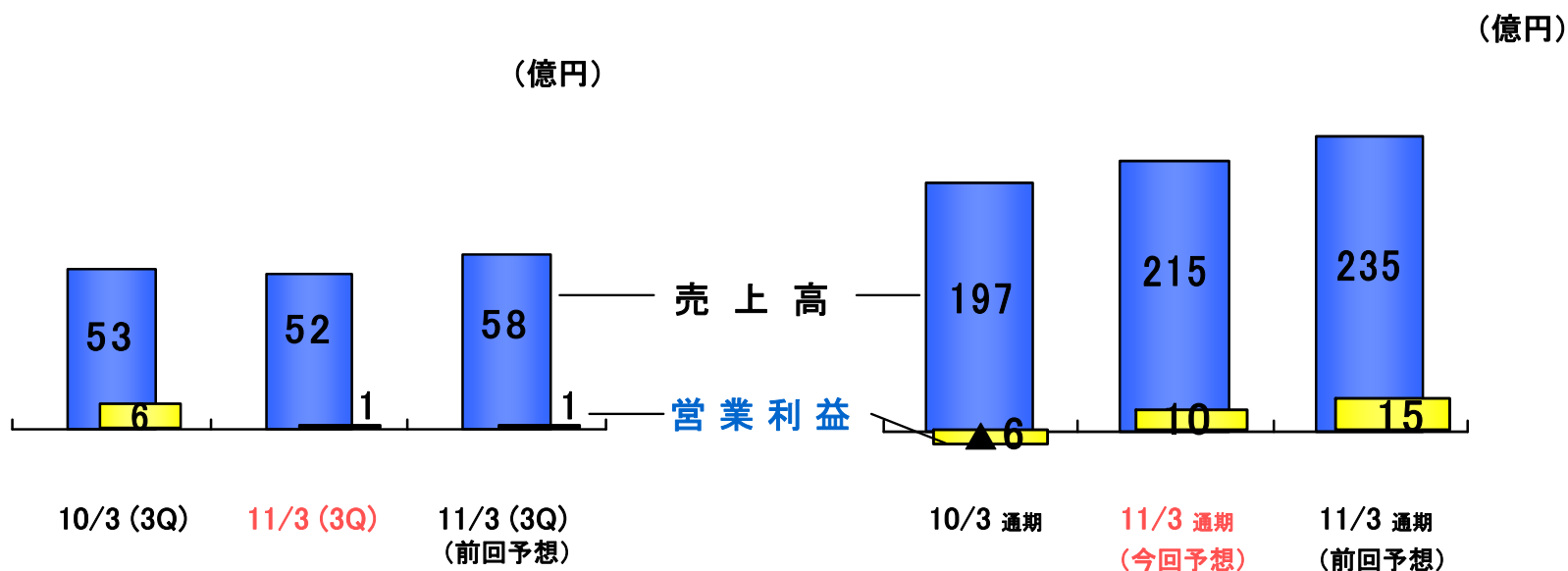


3Qの状況

- ・対前年同期売上高前年並みながら減益。対前回予想では減収
- ・アミューズメント用画像LSIが伸長
- ・地磁気センサーも対前年大幅増
- ・携帯電話用音源LSIの減少継続

通期の状況と4Q重点施策

- ・対前回予想に対しアミューズメント市場の縮小等により減収減益を予想
- ・デジタルアンプ、コーデック新商品の開発、市場投入
- ・地磁気センサーの供給体制整備



その他の事業

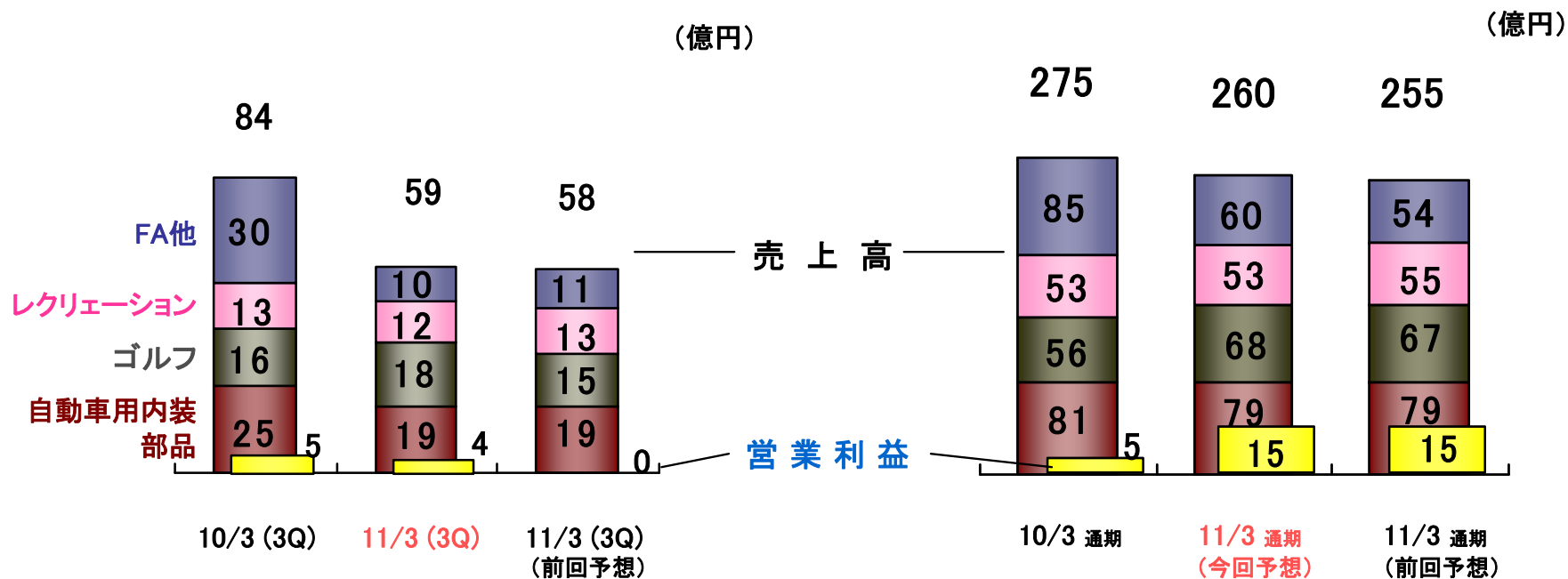


3Qの状況

- ・マグネシウム成形事業撤退により対前年同期減収。
対前回予想では増収増益
- ・自動車用内装部品は計画通りで推移
- ・ゴルフは好調を維持
- ・レクリエーションは集客の減少で対前年同期、前回予想とも減収

通期の状況と4Q重点施策

- ・前回予想から増収を予想
- ・自動車用内装部品は製造原価低減による損益分岐点引き下げ
- ・ゴルフは新商品の一層の拡販
- ・レクリエーションは、運営子会社統合に向け体制整備



設備投資・減価償却費/研究開発費

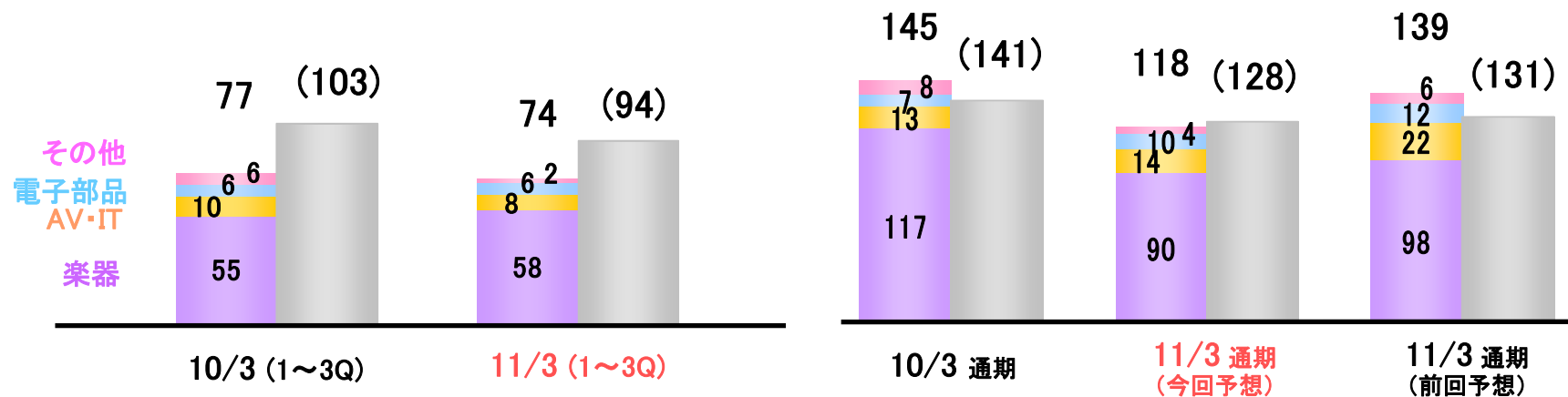


設備投資 (減価償却費)

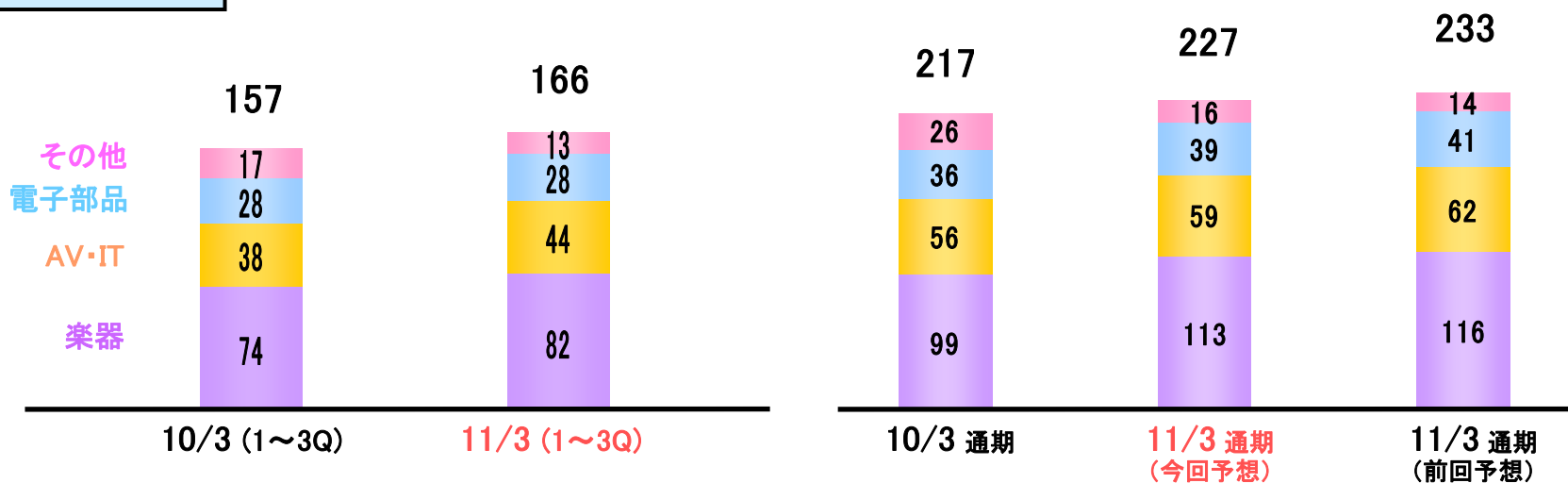
1~3Q

通期

(億円)



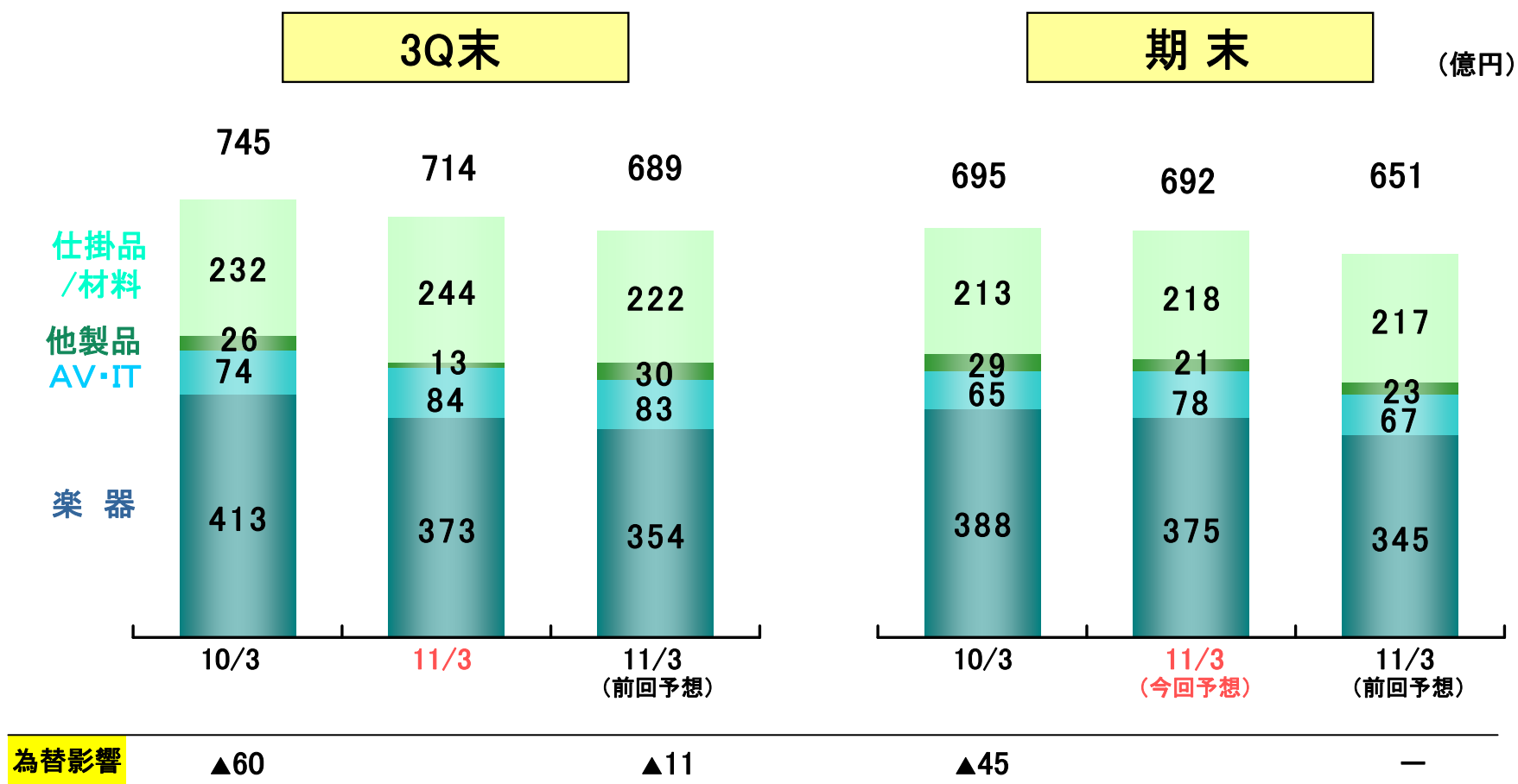
研究開発費



棚卸資産



➤12月末在庫額は、リビング事業譲渡影響、為替要因を除けば実質39億円の増加。また、前回予想に対しても、為替影響を除けば、実質35億円の増加



予想貸借対照表



(億円)

	3Q末			期末予想		
	09/12末	10/12末	増減	10/3末	11/3末	増減
現預金	466	496	30	594	523	▲71
売上債権	636	548	▲88	474	468	▲6
棚卸資産	745	714	▲31	695	692	▲3
他流動資産	175	168	▲7	170	179	9
固定資産	2,095	1,954	▲141	2,089	1,964	▲125
資産計	4,116	3,880	▲237	4,022	3,826	▲196
仕入債務	267	215	▲52	218	217	▲1
借入金	167	174	7	150	119	▲31
リゾート預託金	164	159	▲5	161	159	▲2
他負債	935	891	▲44	947	933	▲14
純資産計	2,583	2,441	▲142	2,546	2,398	▲148
負債純資産計	4,116	3,880	▲237	4,022	3,826	▲196

付属資料

2011/3期 3Q営業外損益、特別損益



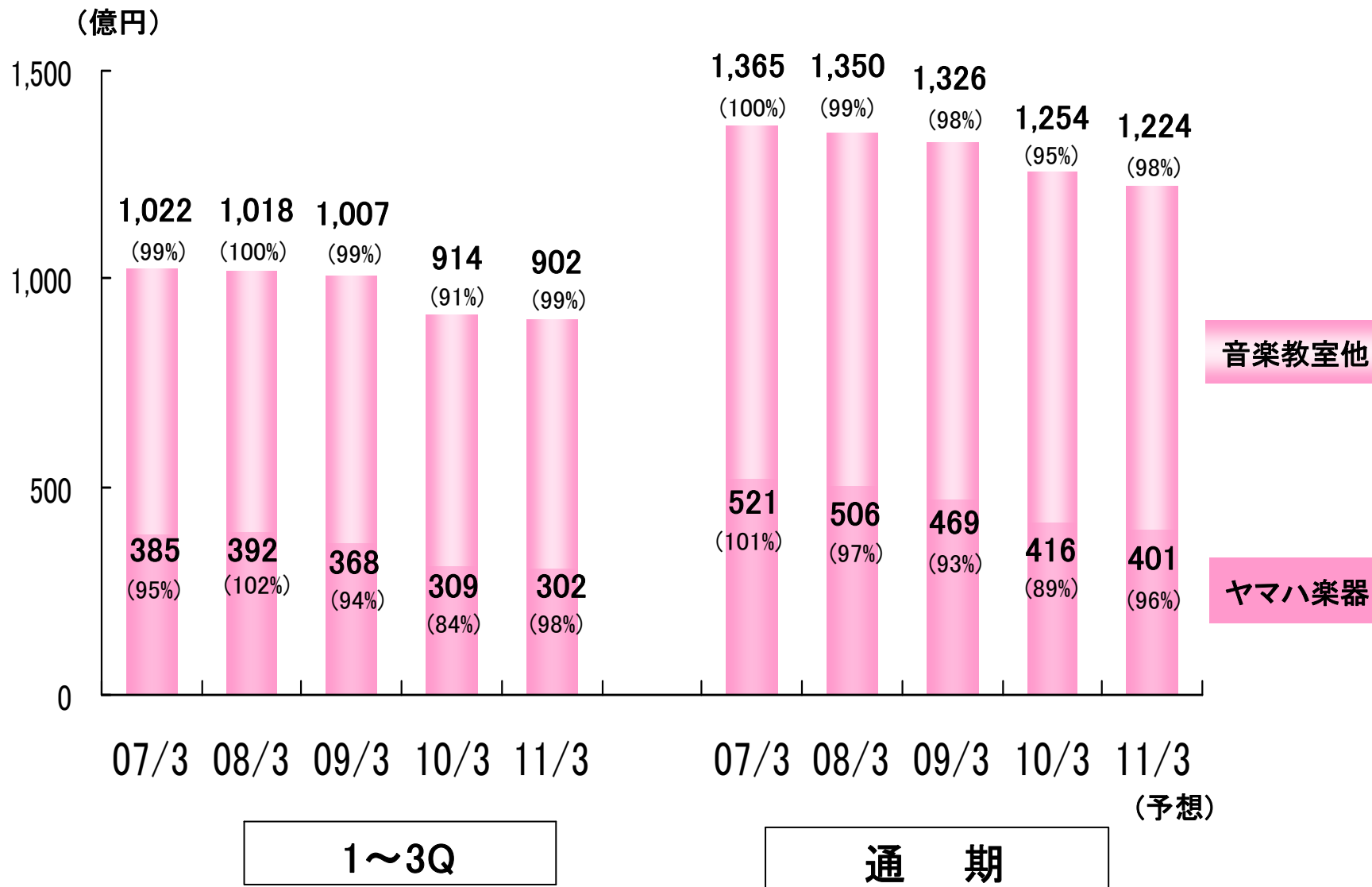
	10/3 (3Q) 実績	11/3 (3Q) 実績	11/3 (3Q) 前回予想
			(億円)
営業外損益			
金融収支	1	1	0
その他	▲5	▲12	▲11
計	▲4	▲11	▲11
特別損益			
固定資産処分損益	▲1	▲1	▲1
その他	0	5	7
計	▲1	4	6
法人税他			
法人税等	9	8	8
法人税等調整額	10	5	10
少数株主利益	1	1	0
計	20	14	18

2011/3期 通期営業外損益、特別損益



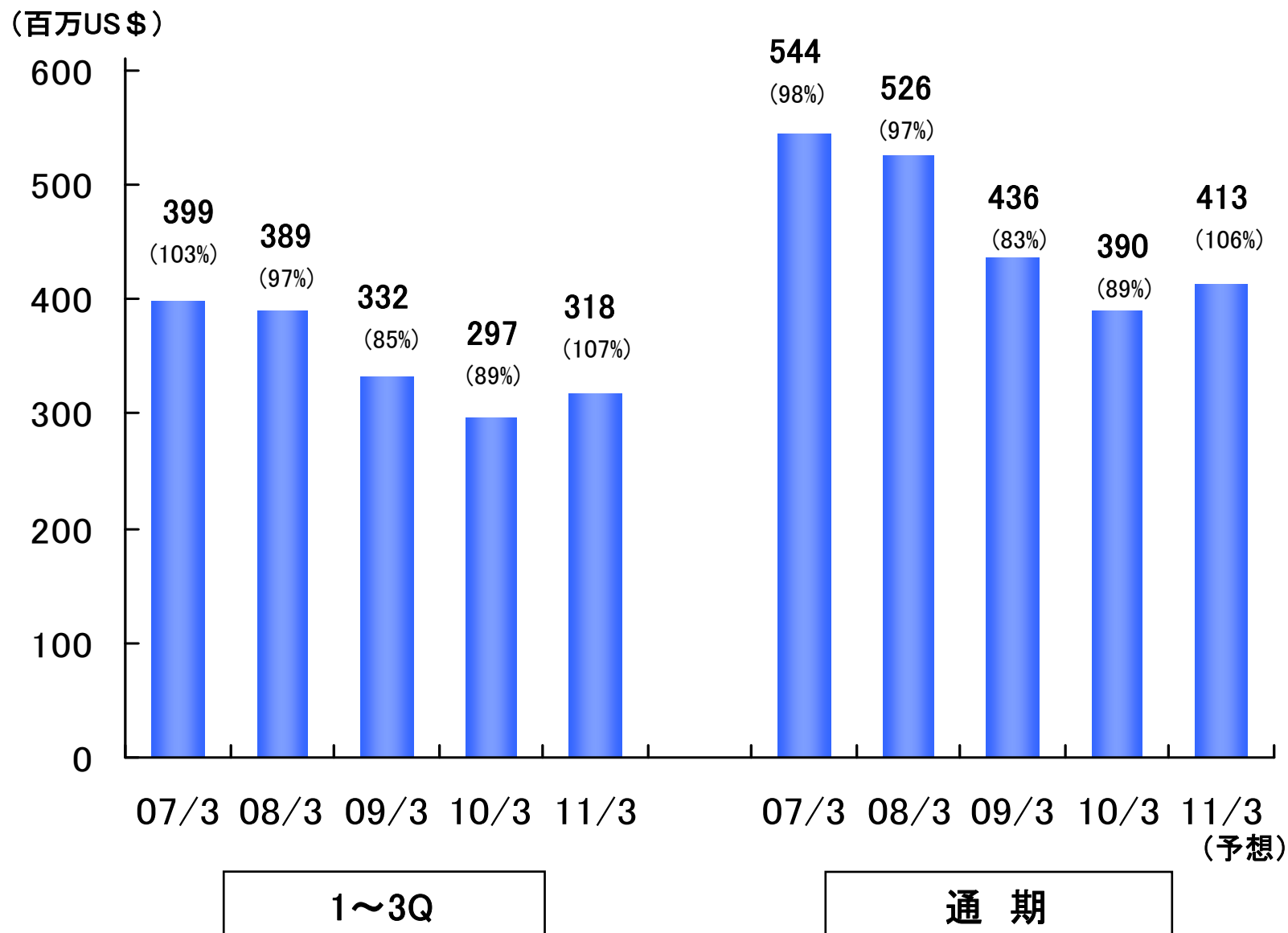
	10/3 通期実績	11/3 通期今回予想	11/3 通期前回予想
			(億円)
営業外損益			
金融収支	3	5	5
その他	▲22	▲30	▲30
計	▲19	▲25	▲25
特別損益			
固定資産処分損益	0	▲4	▲5
その他	▲51	▲11	▲10
計	▲51	▲15	▲15
法人税他			
法人税等	31	39	35
法人税等調整額	13	▲22	▲17
少数株主利益	4	3	2
計	47	20	20

日本市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



()内は前年同期比

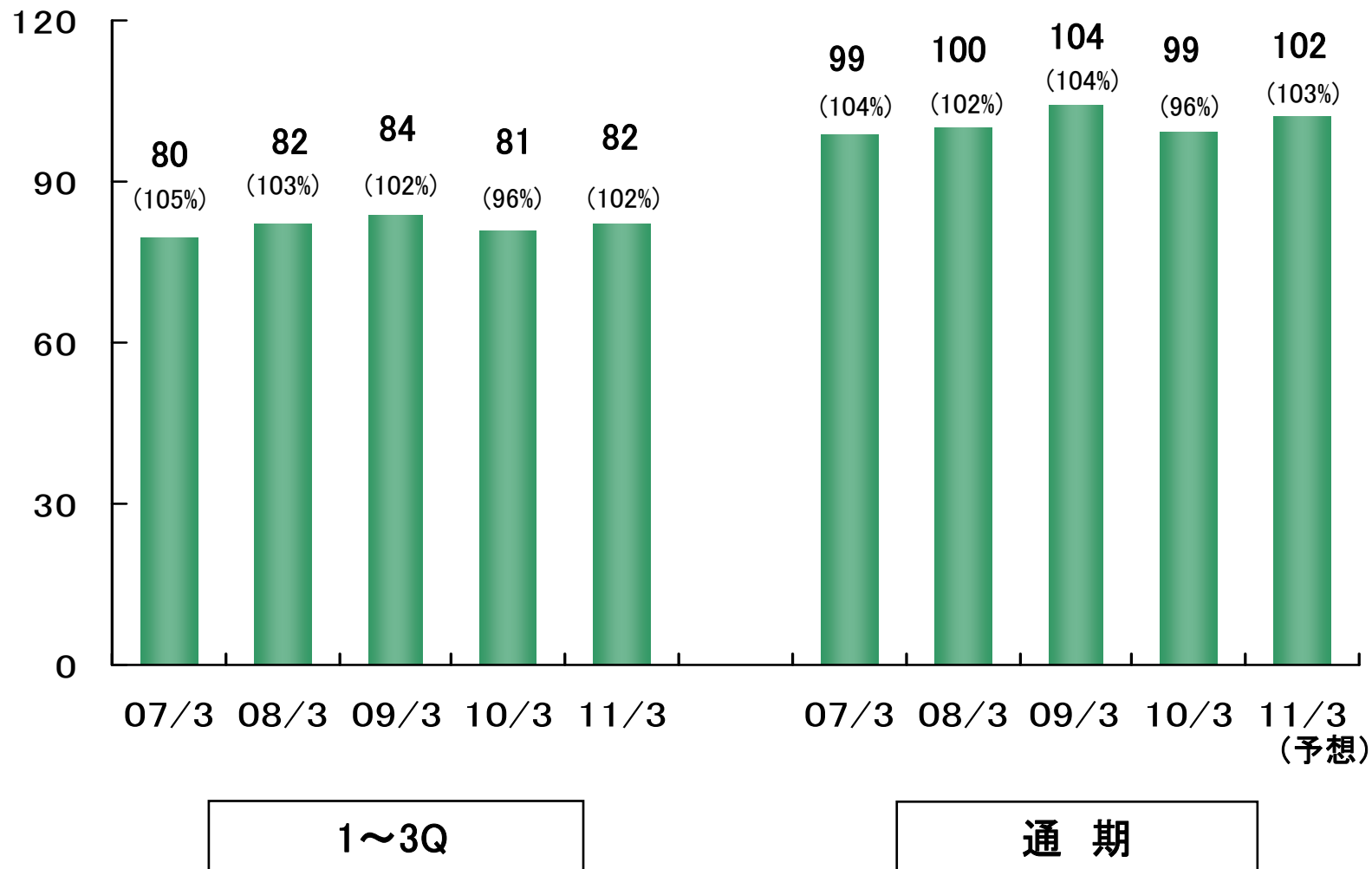
アメリカ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



ドイツ市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況

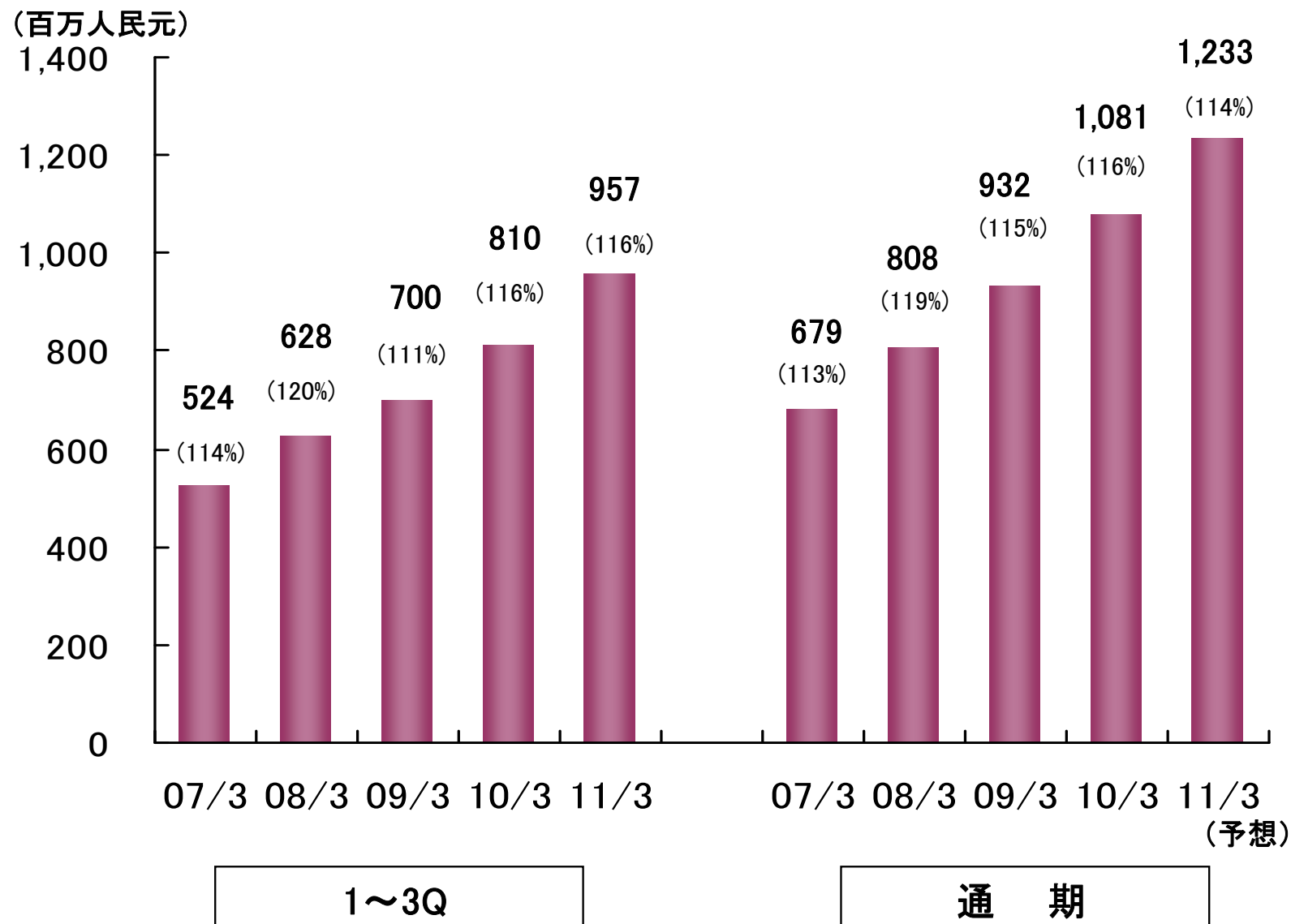


(百万ユーロ €)



()内は前年同期比

中国市場のヤマハ楽器・PA機器販売状況



()内は前年同期比

楽器四半期別売上高／営業利益

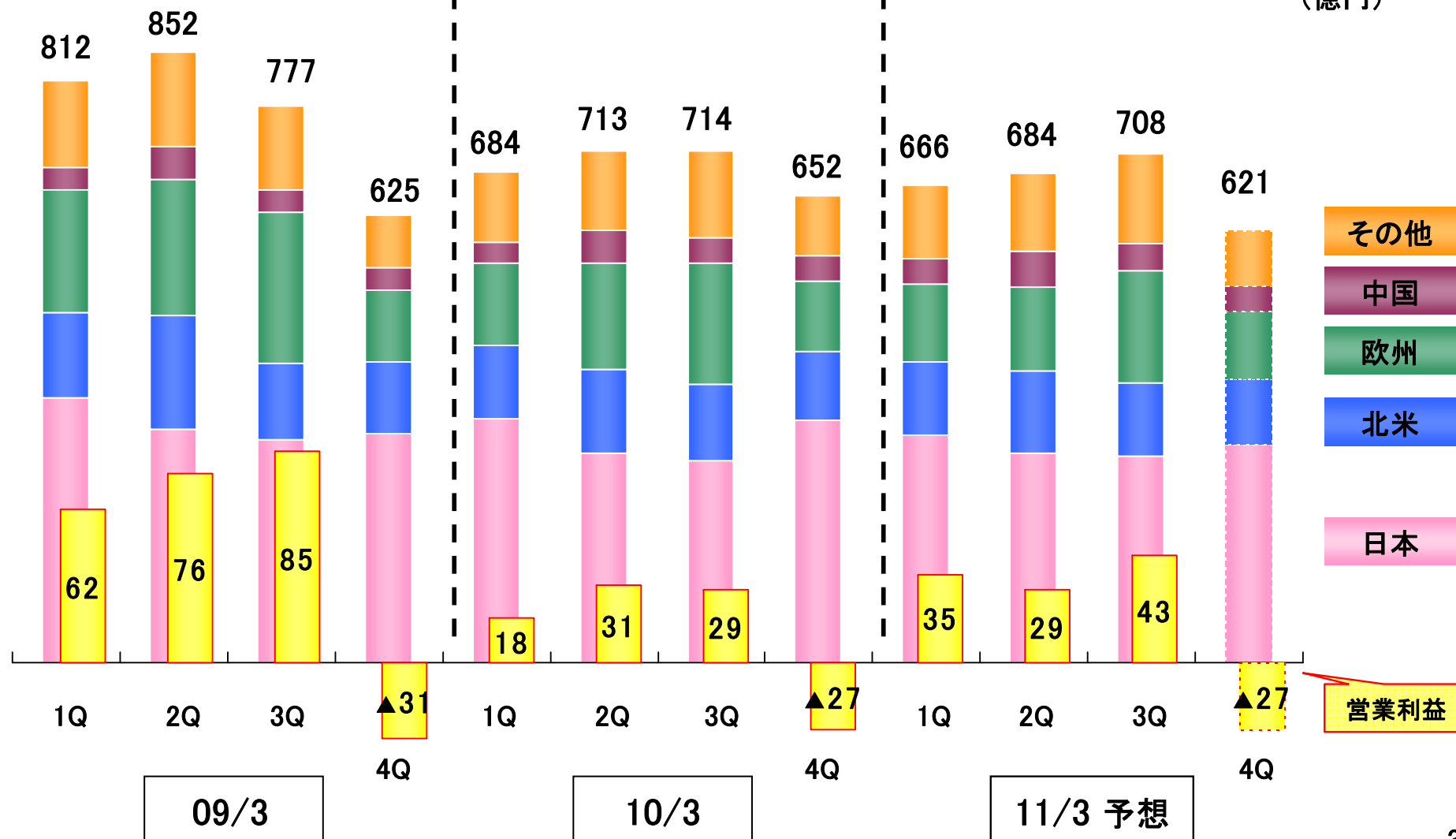


売上高 3,066億円
営業利益 192億円

売上高 2,763億円
営業利益 51億円

売上高 2,680億円
営業利益 80億円

(億円)



AV・IT四半期別売上高／営業利益

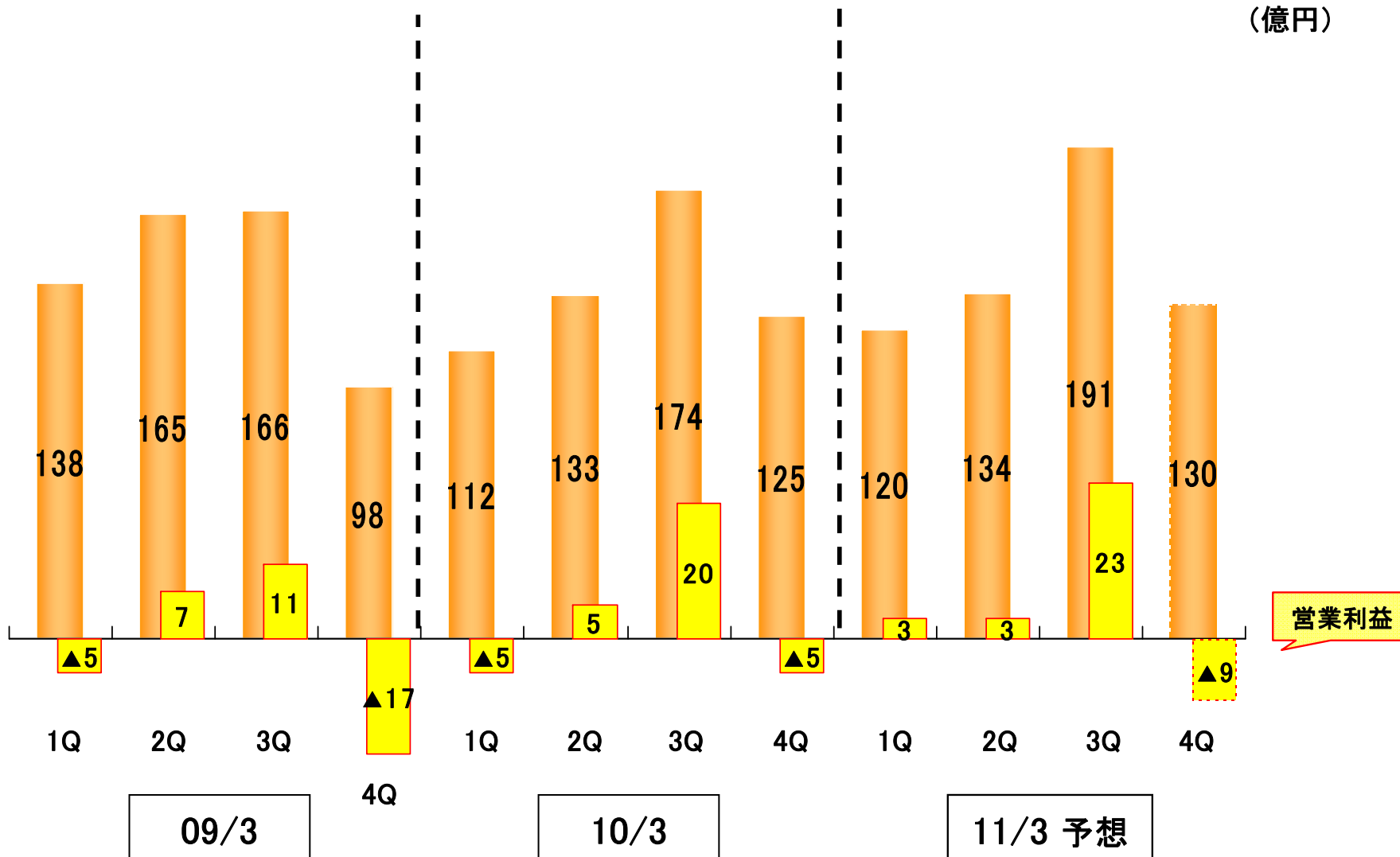


売上高 567億円
営業利益 ▲4億円

売上高 544億円
営業利益 14億円

売上高 575億円
営業利益 20億円

(億円)



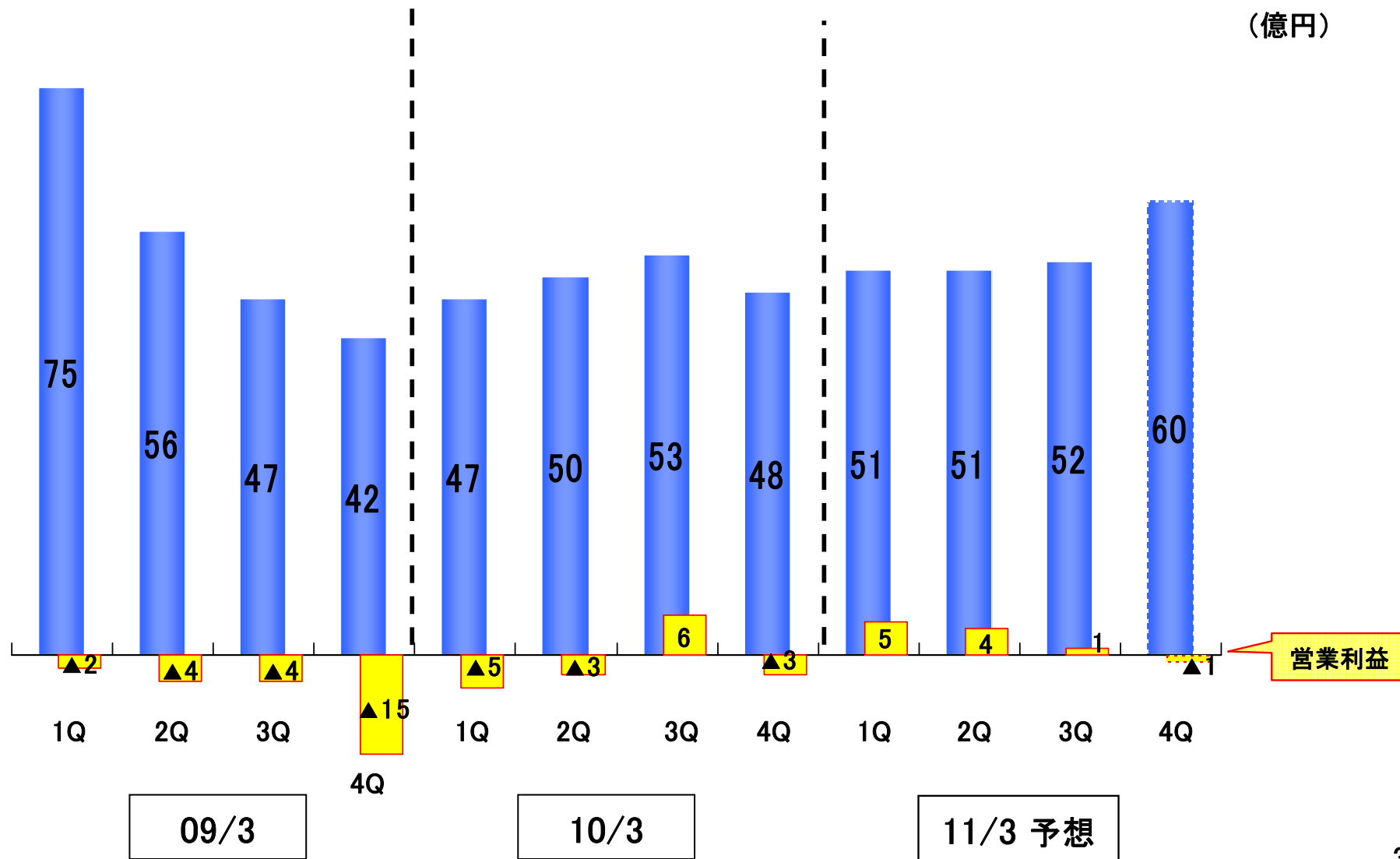
電子部品四半期別売上高／営業利益



売上高 220億円
営業利益 ▲25億円

売上高 197億円
営業利益 ▲6億円

売上高 215億円
営業利益 10億円



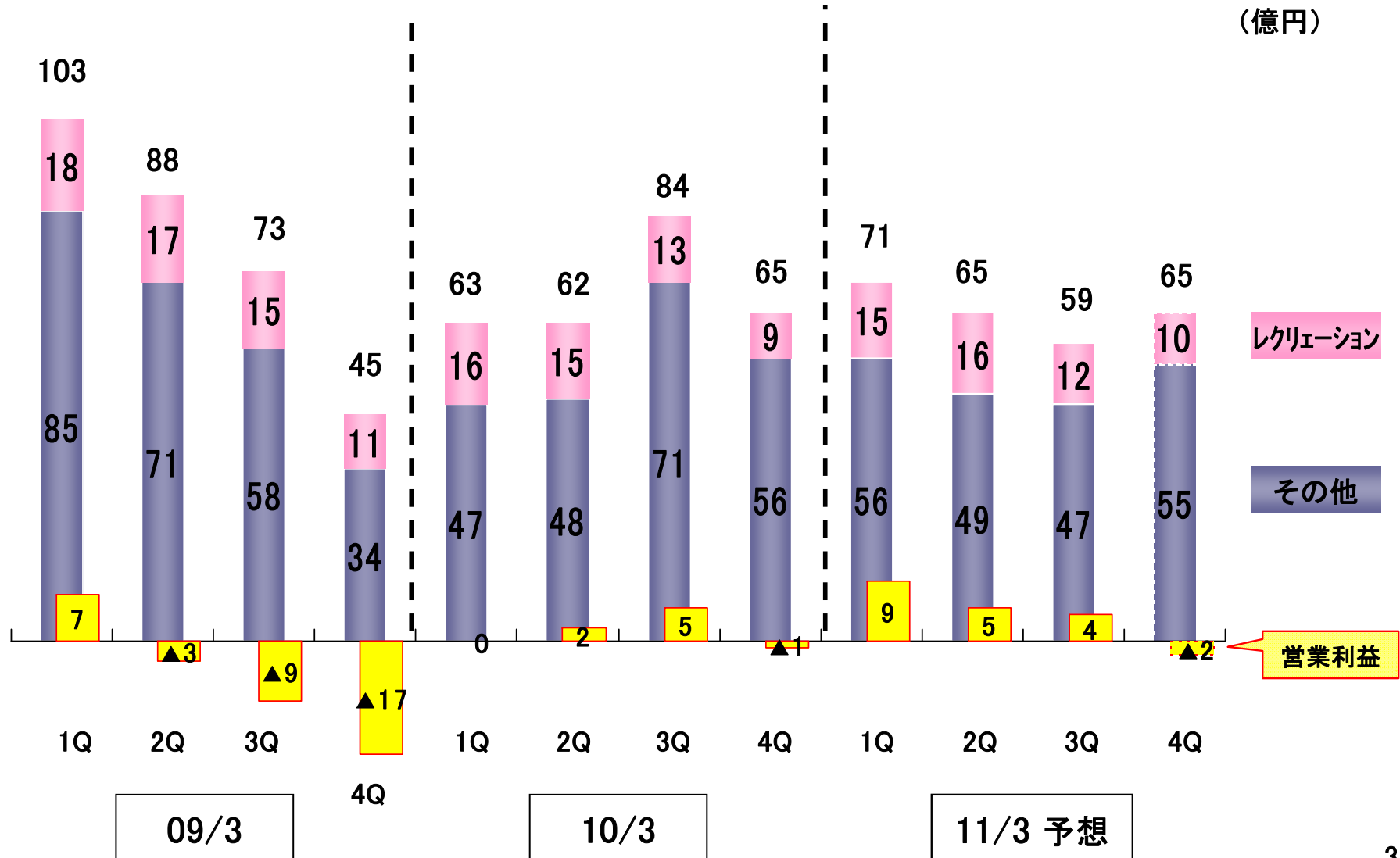
その他四半期別売上高／営業利益



売上高 309億円
営業利益 ▲21億円

売上高 275億円
営業利益 5億円

売上高 260億円
営業利益 15億円



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。